

福祉サービス第三者評価 評価結果

大船ルーテル保育園

〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 2 丁目 26-3

運営主体：社会福祉法人 イクソス会

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4 ページ
分類別評価結果	5～13 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	14～20 ページ
利用者本人調査分析	21～22 ページ
事業者意見	23 ページ

2007 年 1 月 29 日公表

評価機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	社会福祉法人 イクソス会 大船ルーテル保育園		
報告書作成日	2007年1月29日	評価に要した期間	約5ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:06年9月1日～10月13日</p>	<p>全職員の研修会で説明し、常勤職員が自宅に持ち帰って、自由に記入した。</p> <p>個人が記入した評価結果を一つにまとめ、園長、保育主任、事務長などで、意見交換しながら一項目ずつ確認し、評価を決定していった。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:06年9月4日～10月10日</p>	<p>全利用者（園児）の保護者へ事業者から手渡し。</p> <p>各保護者より、同封の返送用封筒にて評価機関宛に匿名で返送。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 06年11月20日 第2日 06年11月29日</p>	<p>第1日午前中は、各クラスの保育観察や5歳児の聞き取り調査、書類調査。昼食は各クラスで園児と一緒にいただく。午後は引き続き書類調査、および園長・事務長・主任・各クラスリーダー・グループ長に面接調査を実施。</p> <p>第2日午前中は、各クラスの保育観察と5歳児の聞き取り調査、書類調査。昼食は各クラスで園児と一緒にいただく。午後は引き続き書類調査と、看護師・栄養士に面接調査の後、園長・事務長・主任に面接調査と意見交換を実施。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 06年11月20日 第2日 06年11月29日</p>	<p>観察調査は、園内および戸外（園庭・公園・散歩に同行）にて実施。</p> <p>聞き取り調査は、5歳児以上を中心に、保育中および食事に実施。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

大船ルーテル保育園(本園)は社会福祉法人イクソス会により、大船ルーテル教会に併設する形で1967年(昭和42年)に開設され、ちょうど40年を迎えました。園長は運営法人の理事長が兼ねています。定員は190名で、キリスト教保育をベースに、モンテッソーリ教育を柱として日々の保育を実践しています。

保育園は住宅地の中に位置し、道路を挟んで小学校と並び、近くには中学校もあります。歩いて直ぐの“いたち川”沿いには遊歩道や公園などがあり、落ち着いた環境に囲まれています。園舎は、鉄筋コンクリート3階建て、築25年を経過しています。経年の中で、保育ニーズに応じて増築したこともあり、建物は入り組んだ構造になっているなど、施設環境は必ずしも良好とは言えませんが、種々工夫して使用されています。

なお、当園は、系列園4園(大船ルーテル本園・分園・とつかルーテル・つづきルーテル)の中心的存在であり、管理運営面・人事面において他の3園をバックアップする役割も担っています。

高く評価できる点

1. 子どもたちは、一人ひとり大切にされ、温かく見守られて園生活を送っています

基本理念「キリストの愛による、乳幼児の健全育成と、就労支援」、保育の基本方針「整えられた環境において、子どもの情緒的発達を助ける」キリスト教保育とモンテッソーリ教育によって、園児に質の高い生活支援をする」に基づき、子どもたちは一人ひとり大切にされ、園生活を送っています。

日常の保育では、3歳から5歳(本年度は4歳から5歳)は縦割り保育を行っています。

朝の教会での礼拝では、ほとんどの子どもたちはきちんと座り、園長の話聞いています。モンテッソーリの時間では、子どもたちは落ち着いて、一生懸命教具に取り組んでいます。保育士は、そばで静かに観察しながら言葉かけや手助けをしています。

訪問調査の日は、子どもたちはクリスマスに向けた合奏、オペレッタ、降誕劇に熱心に集中して練習していました。年長の子の練習を年少の子どもが真剣に見ている風景も見られます。これは毎年繰り返されている行事なので、年長になると降誕劇を演じられるという伝統が受け継がれ、子どもたちもそれを楽しみにしているようです。

園庭では、かけっこ、電車ごっこ、ジャングルジム、砂場など、それぞれ好きな遊びを友だちと一緒に楽しんでいます。年長の子は年少の子をいたわり、ともに遊ぶ姿が見られます。みんなで一緒に遊ぶ楽しさと共に、友だち関係やルールを守る社会性が育てられています。

保育士は、子どもたちの姿や行動をしっかりと見ています。けんかの場合など、保育士はすばやく近寄り、かなりの時間をかけて、お互いが納得した形で収まるように手助けしています。また、一人ひとりの子どもの気持ちや意思を大切に、自由遊びの中では一人ひとりが興味や関心を持って遊べるように援助しています。個々の子どもの持てるものを生かすことに努め、子どもたちを温かく見守っています。

2. 保育士は常に向上心を持って、真摯に学び、それを実践に活かしています

保育士たちは、採用後、大学等における2年間のモンテッソーリ教員養成コースで、モンテッソーリ教育の理論と実践を学び、実際の保育の場で活かしています。

そして、毎月開催する、ケーススタディ会議、クラス別会議などを通して、相互に研鑽しています。また、月2回開催の聖話研修で学び、子どもたちにキリスト教義を分かりやすく話しています。このように日々学び、保育を通しての振り返りを行っています。

また、年末の振り返りのレポートによる自己点検と、園長との面接を通して、翌年の目標を立

て課題を設定しています。園長の強いリーダーシップと保育士たちのたゆまぬ向上心が、当園の保育の質を高めています。

注：モンテッソーリ教育について：

モンテッソーリ教育とは、1870年、イタリアのマリア・モンテッソーリ（医学博士、哲学博士）が、障がいのある子どもの教育を試行として実践したところから生まれました。

この教育は従来の保育士主導の一斉保育とは異なり、主として個別指導のかたちをとります。部屋にはカリキュラムに従って各種の教具が用意されており、幼児がその教具を自由に選択し、触れ、集中することを通して、幼児の持つ自発的で創造的な関心を段階的に引き出し、秩序ある自己育成を促していこうとするものです。

保育士はアドバイザーとして、適切な助言等のために常に幼児の近くに備え、また、幼児の関心が教具に向いていくよう、部屋の環境づくりに配慮しています。

改善や工夫が望まれる点

1. 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの更なる推進を

現在、子どもをとりまく環境が大きく変化していく中で、保育園には地域における子育て支援の役割が求められています。

当園は、開設以来地域に根ざした保育園として、バザーや七夕の催しには多くの地域の人々の参加があり、学童保育を併設するなど、地域の中に溶け込んだ存在になっています。

子育て支援サービスについては、面接または電話による育児相談、地域の人々が参加できる育児関連の講習会の開催などに努めています。今後は、広報の仕方なども工夫したり、地域の関係機関や団体と交流・提携するなどして地域における育児支援ニーズを把握し、園の持つ高い専門性や特徴を生かして、育児支援サービスを更に推進していくことが望めます。

2. 安全対策の取り組みに更なる工夫を

園では、1967年の開設以来、社会の変化に応じて安全対策面などについても種々施策を講じてきたところですが、利用者家族アンケートにおいては、多くの保護者が保育園の安全対策（不審者侵入に対する備えなど）について危惧を抱いています。

当園は、教会に併設されていることや、学童保育を実施していることもあり、セキュリティの確立に関して困難な状況にあることは理解できますが、今後安全対策について広く検討を加えるとともに、関係者の意見なども参考にして、保護者がより安心できる状況を作り出すことが望めます。

3. 中長期計画の明文化を

安定した施設運営を可能とするためには、常に先を見据えた課題設定や、外部変化に対応できる環境を備えることが大切です。そのために、進むべき方向を明確にするための中長期的な計画を定めることが求められています。

園長は、運営法人の理事長として、中長期的な外部環境の変化を踏まえた組織のあり方や、次代を担う人材の計画的な育成について検討し、職員会議や職員全員研修の際に紹介、対応すべき課題などを示していますが、明文化された形には、まとめられていません。

計画の明文化と同時に、高い理念や基本方針をより具現化するために、中長期計画を法人全体で共有化し、モチベーションの高い職員の主体性を一層引き出しながら、全職員がより積極的に園の運営に参加していくことが重要と考えられます。

当機関では、障害を「障がい」と表記しています。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権への配慮

- ◇ 保育の基本方針「整えられた環境において、子どもの情緒的発達を助ける。キリスト教保育とモンテッソーリ教育によって、園児に質の高い生活支援をする。」に基づき、子どもたちは一人ひとり大切にされ、温かく見守られて園生活を送っています。
- ◇ 虐待の定義が全職員に周知されており、虐待が明白になった場合や疑わしい場合には、関係機関との連携が取れる体制になっています。
- ◇ 個人情報保護についてはマニュアルで周知され、個人情報は所定の書架で管理されています。

2、利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援

- ◇ モンテッソーリ幼児教育を柱とし、子どもの持つ自発的で創造的な関心を引き出し、自己成長を促し、子どもたちの個々の成長を大切に保育を行っています。
- ◇ 園児の送迎時における保護者との交流、連絡帳、年2回の保護者懇談会、年1回の保護者面談などを通して、保護者の意向や要望を把握することに努めています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 保育園の運営に豊富な経験を持つ園長のもと、キリスト教保育に基づいたモンテッソーリ教育の考え方により、優れた保育のしくみが構築され実践されています。
- ◇ 職員に対しては、職員心得が定められています。毎年度初の会議においては園長より詳細に説明され周知されています。
- ◇ 法関係、危機管理、保育関連、施設関連に分類されたマニュアルが整備されています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 毎年恒例のバザー、七夕、お買物ごっこには多くの人々が訪れ、地域との交流が図られています。また、花の日(6月)、収穫感謝祭(11月)には、園児がお世話になっている病院や消防署・警察署・区役所等に、感謝の気持ちを込めた品を持って、訪問しています。
- ◇ 近隣の小学校等との連携もとりながら、学童保育を併設するなど、種々の形で地域の子育ての課題に対応してきました。
- ◇ 育児相談は、特に日を決めていませんが、電話及び面談で相談を受けています。
- ◇ 今後は、園として、地域の関係機関・団体との交流・提携をより深めることなどで、地域の子育て支援ニーズの把握に努め、子育て支援サービスの提供について更に検討していくことが望まれます。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 保育理念や保育の基本方針が明確に定められ、職員会議などを通して周知・理解され、実践されています。園長の自由な話し合える園づくりが、運営上の透明性に結びついています。
- ◇ 保護者へは、毎月の園だよりと年2回の保護者懇談会を通して園の取り組みや行事が伝えられています。また、大船ルーテル教会発行の「月報」の中で保育園の状況を広く伝えていきます。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 職員の資質向上については特に力を入れている部分であり、職員は向上心をもって真摯に学び、自己研鑽に努めています。
- ◇ 採用後、保育士は大学等で2年間のモンテッソーリ教員養成コースを受講し、モンテッソーリ教育の理論と実践を学び、実際の保育の場において更に研鑽を重ねています。
- ◇ 園内研修としての、ケーススタディ会議、クラス別会議などを通して、自らの保育技術の向上を図っています。
- ◇ 職員は年末に自己評価を行い、園長面接を通して振り返りを行いながら、次年度の目標を確認しています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。








「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 当園は、キリスト教精神を基にして、モンテッソーリ幼児教育をもって独自の保育をすすめて、0歳から就学前までの一貫保育を基本理念としています。 「整えられた環境において、子どもの情緒的発達を助け、園児に質の高い生活支援をするとともに、地域に根ざす保育園として保護者の就労支援」を基本方針にあげています。 当園の保育は、従来の保育士主導の一斉保育とは異なり、主として園児の個別指導の形をとり、幼児の個々の成長を考えています。 職員は、モンテッソーリ教育やキリスト教の保育について大学のモンテッソーリ教員養成学校やキリスト教の専門誌により学んでいます。さらに、基本理念や基本方針について、職員心得や手引き書を読み、職員研修での相互確認によって理解を深めています。 保育士は子どもをよく観察し、一人ひとりの意見・意思を汲み取り、個別に記録しています。その記録から子どもの自主性や主体性を育て、発揮出来るように指導計画の作成・見直しをしています。 モンテッソーリ教具に触れた日付と取り組みの様子や保育士との関わり方などの個別記録（モンテッソーリ記録） 子どもの社会性・協調性を促すため3歳から5歳までを異年齢児保育としています。ただし、分園の開設などともなう人事体制の面から、本年度は4歳・5歳のみを異年齢児保育（縦割りクラス）とし、3歳は独立のクラスにしています。 保育計画は、子どもたちが自発的に活動に取り組めるように、モンテッソーリ教育に基づいて作成しています。地域社会資源として、地域に残る民話や遺跡、地域住民参加で自然保護に取り組んでいる“いたち川”、近隣のスポーツ施設等を活かし、また、新興住宅やマンション建設に伴う住民増加などの実態もふまえた上で保育計画を作成しています。


<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園前の子どもの発達状況や課題等は、事前に保護者より提出される生活スケジュールなどの書類、及び入園前の保護者面接から把握しています。把握した情報は、児童票に記録し、保育士間で共有し、日々の保育に活かしています。 ・ 新入園児及び転入園児の受け入れ時には、個々の子どもの状態や保護者の仕事の状況を考慮し、必要に応じて短縮保育を行い、早く慣れるように在園児への配慮も行っています。 ・ 「モンテッソーリ記録」を活用し、子どもの発達や状況に応じて指導計画の作成・評価・見直しを行っています。
<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが快適に過ごせるように、園内・外ともに常に清潔に保ち、通風換気が確保されています。 ・ 乳幼児の保育室は床暖房になっているほか、どの保育室も南向きに大きく窓があり、陽光が十分取り入れられるようになっています。 ・ 沐浴・シャワー設備があり、夏にはテラスで沐浴を行っています。また、各設備は衛生管理や清掃も十分に実施されています。 ・ 食事の場所と寝る場所は分けています。 ・ 異年齢児保育（縦割りクラス）を取り入れている他、散歩や園庭での自由遊びの時間、延長保育の時間にも、自然に異年齢児との交流が来ています。
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の目標・計画は、月毎の保育計画に組み込み一人ひとりの子どもの発達状況に合わせ、柔軟に変更・見直しを行っています。また、重要部分については連絡ノートや口頭で保護者に説明し、同意を得ています。 ・ 個別指導計画はモンテッソーリ教育のプログラムに沿って詳細な記録をとり、一人ひとりの発達の状態に応じて、複数の職員で話し合い決定しています。 ・ ケース会議やクラス内で常に一人ひとりの子どもについての話し合いがなされ、育児相談、日々の状況や小さな要望も日誌に記録し、重要な申し送り事項は進級時に伝達されています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に配慮を要する子どもについては、個別にケース会議で話し合い、必要な情報を職員間で共有し、他の子どもとの関わりの中で良い方向へ進むように保育計画を立てています。 ・ 地域療育センターや区の福祉保健センター・児童相談所との連携があり、保護者の同意を得て、医療機関や専門機関から助言や情報が得られる体制をとっています。 ・ 国際（英語）の時間があり、文化や生活習慣の違いについて子ども達が理解し、考え方の違いを認め尊重しあえるように配慮しています。 ・ 全職員がアレルギー疾患についての必要な知識や情報を得て、保護者と連携をとり対応しています。

- 6 苦情解決体制



- ・ 第三者委員や権利擁護機関など他機関の苦情解決窓口は、保護者に配布している「手引書」に記載するほか、園内に掲示して紹介し、保護者が直接苦情を申し立てる事が出来るようにしています。
- ・ 保護者の意見や要望・苦情は懇談会や連絡ノートから受け止めるようにしており、会議等を通じて職員に理解・周知されています。
- ・ 今後は、さらに意見箱やアンケート等で、進んで意見や要望などを聞いていくことが望まれます。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none">・ モンテッソーリの教具は時間帯を決めて「お仕事」として取り入れ、年齢や発達、興味を尊重し、集中力を高めるように配慮しています。・ 近くにある“いたち川”を散歩コースに組み込み、カモやコイなどを観察したり、ドングリを拾うなど、自然に触れています。また、遊歩道にある民話や遺跡の掲示物を使い、地域の歴史に触れる機会を積極的に設けています。・ 園庭の狭さを補完するためにも、散歩や屋外活動などを積極的に取り入れるほか、近隣の施設を活用したスイミングやリズム遊びの時間を組み入れ、運動能力を高められるようなプログラムとなっています。・ 絵画、習字を保育プログラムに取り入れ、上手に絵を描く事よりも、園児の感性を育てることに重きを置くなど、子どもが自発的に表現するよう配慮しています。・ 自然な家庭の姿に近い異年齢児保育を取り入れ、けんかやもめごとがあっても、年長児が年少児を助け、励まし、いたわり合うことを学ぶよう配慮しています。また年少児が年長児を見習いながら共に育つ効果を活かし、保育士は見守り援助をしています。・ 保育士は常に公平で温かい態度・丁寧な言葉遣い等で子どもに接し、信頼関係を築いています。

- 1 保育内容[生活]



- ・ 保育士は、園児と一緒に食事をし、適切な言葉かけや援助をしています。子どもが残さず食べられるよう、前もって量を減らしたり、偏食がある場合には、「おいしいね」と一緒に食べて見せたり、努力を褒めるなど、子どもが自分から食べようとする意欲や行動を大切にしています。
- ・ 子どもの成長に合わせた食器を採用し、近隣の商店から子どもにとって安全な食材を確保することを配慮しています。
- ・ 食育については年間を通して計画を立て、年齢にあわせて栄養士が絵を使って栄養のお話をしたり、園児が食材に触れる機会を設定するなど工夫をしています。
- ・ 当日の給食サンプルはロッカー室に展示して、保護者に園で提供する食事に対する関心を促しています。保護者へは毎月の給食便りの中で、給食のレシピや季節の食材・栄養・味付け・食べ方などの情報を知らせています。
- ・ 安心して心地よい眠りにつけるよう、遊びスペースと寝る場所を別に確保し、午睡・休息の場を工夫しています。
- ・ 一人ひとりの排泄のリズムをとらえ、個人差を尊重しています。おむつは布おむつを使用し、1時間おきに確認しながら、個々にトイレトレーニングへ進めています。
- ・ おもらしをした時は優しく対応し、素早く着替えを手伝い、ぬれた布団を片づけるなど、子どもの負担がないように全職員が配慮しています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・ 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、必要に応じて園での子どもの健康状態を保護者に伝え、情報を共有し対応について話し合っています。
- ・ 健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝え、家庭との連携を密にし、対応について相談しています。
- ・ 感染症への対応については、登園停止基準や保育中に感染症等の疑いが生じた場合の対応を保護者へ配布の「手引書」に詳しく明記し、職員だけでなく保護者にも周知しています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- ・ 衛生管理についてのマニュアルがあり、職員も参加して定期的研修の場で見直しを行い、内容を全職員が共有しています。
- ・ マニュアルに基づき清掃等が行われています。保育中にも頻繁に保育士が清掃を行うので、清潔で適切な状態が保たれています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



- ・ 事故や災害に関わるマニュアルは整備され、全職員に周知されています。また、緊急連絡先は事務所に掲示し、通報や連絡体制について、地域の避難所への誘導などの予行演習を行っています。
- ・ 子どものケガについては、軽傷であっても必ず保護者に状況を報告・記録し、職員会議で再発防止策の検討が行われ、改善策が実行されています。
- ・ 職員が救急救命法を身につけています。
- ・ 隣接する小学校や周りの住民との関係が密になっており、不審者の情報等が得られるネットワークができています。
- ・ 民間の警備会社と防犯システムの契約をかわし、不審者等に対する緊急通報体制も確立されていますが、近年の社会環境の悪化を考えれば、防犯体制について、更に検討する事が望まれます。

- 3 人権の尊重





- ・ 子どもに対して威圧的な言葉遣い、無視が行われないよう、職員間で相互に配慮しています。
- ・ つい立や棚を活用し、友だちや保育士の視線を意識せず過ごせる場所があります。
- ・ 個人情報の取り扱いについてガイドラインをつくり、守秘義務の意義や目的についても全職員（ボランティア・実習生含む）に周知しています。
- ・ 家庭支援の必要な保護者を援助し、虐待の予防に配慮し、疑わしい場合には関係機関と連携できる体制が整えられています。
- ・ 日常の保育では、整列・グループ分けなどは名前順で男女の区別はしていません。また、無意識に性差による固定観念で保育をしていないか、職員相互に確認しあう仕組みがあります。

- 4 保護者との交流・連携






- ・ 入園時に保護者に配布する「手引書」は大変丁寧に作られ、保育方針を明記し、キリスト教やモンテッソーリ教育についての説明も記載し、保護者が判断に迷ったときの参考資料となっています。
- ・ 保護者とは、連絡帳などできめ細かに情報交換をし、子どもの送迎時には、その日の子どもの様子を伝えるよう配慮しています。4月のPTA（保護者と職員による組織）の全体会では、モンテッソーリ教育で使っている教具を実際に見てもらい、説明しています。
- ・ 保護者からの相談を受けた保育士は、内容によって、室長や事務長に伝え適切に対応し、継続的なフォローができる体制となっています。
- ・ 大船ルーテル教会発行の「月報」を毎月発行して園のスケジュールも掲載するほか、保護者向けに「月のお知らせ」、「月の保育（クラスだより）」を発行し、行事予定や、園児の様子を伝えています。
- ・ PTA活動があり、園は保護者が自主的に活動できるよう場所等の提供をし、会議等には主任が参加しています。バザーには、PTAも参加し、卒園お別れ会の準備は、PTAが中心となってすすめています。
- ・ 保護者に保育方針が理解されているか、保護者の園に対する要望などについては、園独自に行事後のアンケートに自由記述欄を設けるなどの工夫をして確認することが望まれます。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援ニーズの把握については、園で開催するバザー（11月）や七夕（7月）に来場する人々を通して、情報を得ています。 ・更に、保育園運営とともに幼児教育等に長い経験を持つ園長（運営法人の理事長）の関係機関・団体との交流、並びに地域における活動を通して、施設に対する要望などの情報を得ています。また、事務長は地域ケアプラザで行われている「地域支えあい連絡会」に参画し、地域に関連する情報交換をしています。 ・地域の子育てを支援するサービスとして、乳児を対象とした「一時保育」を1日1～2名の目安で行っています。 ・また、地域住民に向けての子育て支援に関する講習会として、昨年「発達障がいについて」と題する講習会を開催し、約30名の参加がありました。 ・今後、地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供の一層の推進のために、関係機関や他施設とも情報の共有化を図り、園としてどのようなサービスが提供できるか、職員間で定期的に検討していくことが望まれます。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の専門性を活かした相談機能として、特に、相談日は設けませんが「育児相談」を行っています。 ・地域に対する情報提供としては、限られた提供範囲になりますが、大船ルーテル教会発行の「月報」があり、その中で、教会としての情報提供と共に、本園を含めた系列の4つの保育園の動きや行事等を紹介しています。 ・今後、園からのお知らせを掲示板を利用して紹介するなど、地域住民への情報提供については、工夫が望まれます。また、相談内容に応じた関係機関・団体との連携についてのしくみづくりについても検討が望まれます。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・恒例の行事となっているバザーを始め、七夕、お買い物ごっこには多くの人々が訪れ、地域に大変親しまれています。 ・園の地域との連携では、約30年前から学童保育を併設していることがあげられます。また、バスの貸出しもしています。 ・園児たちは、散歩の中で地域の人々との挨拶や言葉がけで交流しています。更に、6月の花の日（1年で一番花の豊富なこの季節に、美しい花を通して、感謝を表すキリスト教の行事）や11月の収穫感謝祭には、園児たちが、お世話になっている近隣の病院、消防署・警察署・区役所等へ感謝の品を持って訪問しています。 ・園児たちが利用している地域の文化・レクリエーション施設としては、あーすぷらざ（栄区民文化センター）があり、また、飯島グランドでは栄区内6つの保育園が共同で作物栽培をしています。 ・園長は地域の種々の団体・機関との長い交流と活動を通して、保育園に対する理解促進に寄与しています。今後は、園として、自治会・町内会・ボランティアグループなどとの定期的な交流を図ると共に、地域の行事や活動への参加の検討が望まれます。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の利用者が関心のある事項については、栄区の広報誌、及び市のホームページにより提供しています。なお、当園は約40年の歴史の中で、地域に根付いていることから、園に関する情報が多くの卒園児や保護者を通して、将来の利用者へ提供されています。 ・園の基本方針や利用条件・サービス内容等に関する問い合わせについては、園長、事務長が、随時、対応しています。 ・また、保育に支障をきたさない範囲で、見学の希望にも対応しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア・実習生の受け入れマニュアルが作成されています。年度初めにボランティア、看護学部生、保育学部生ごとに担当責任者を定め、受け入れる体制を整備しています。 ・現在までに、多くのボランティア及び実習生を受け入れ、その育成に寄与してきています。実習生に対しては実習終了後、職員との意見交換の場を設けており、気付きや感想を園の運営に反映させるしくみを持っています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材の育成については特に力を注いでいます。園の理念や方針に相応しい職員を採用し、採用後は大学等での2年間のモンテッソーリ教員養成コースへの受講を奨励し、支援しています。更に園内における各会議・研修を通して、人材の育成に努めています。 ・ 職員の研修体制は確立されており、外部の研修、研究発表会へも積極的に参加し、また、海外研修への参加も行っています。 ・ 職員は個々に資質向上に向けた目標を定め自己研鑽に励んでおり、年末の園長面接を通して評価を受け確実なものにしています。 ・ 一貫した計画の下に研修が行われていますが、研修計画が明文化された状態にはありません。また、外部の研修・研究発表会における研修の成果を広く活用する状況には至っていません。 ・ 今後、研修計画の文書化、研修成果の更なる活用などについて検討が望まれます。 ・ 非常勤職員には、業務マニュアルによる勉強会、職員会議への出席等を通して指導を行っています。また、常勤職員の日常の実務を通しての教育・指導（OJT教育）により資質向上を図っています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員はモンテッソーリ教員養成コースを修了し、実践において保育技術の向上に努めています。そして、毎月開催のケーススタディ会議における意見交換・討議、クラス別の会議などを通して、更なる技術の向上を図っています。 ・ モンテッソーリ勉強会や聖話研修においては、外部より講師を招いて指導を受けています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員のモチベーションの維持向上に関して、経験・能力や習熟度に応じた役割が職員心得に明文化されています。 ・ 職員は、本人の適性・経験・能力に応じた役割を与えられやりがいや満足度を高めています。 ・ 園長は、年末に職員全員から提出される振り返りのレポート及びアンケートを丁寧に読み込んで一人ひとりと面接を行い、職員の満足度・要望などを把握しています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者として守るべき、法・規範・倫理等は、職員心得に明文化されており、会議等において周知徹底されています。 ・外部に対する経営・運営等の情報の公開としては、配布先が限られてはいますが、大船ルーテル教会発行の「月報」を利用して行われています。 ・ゴミの減量化については、布オムツの使用、ゴミの分別収集など、積極的に取り組んでいます。また、省エネルギーについては、床暖房の採用、太陽熱利用温水器の使用など、環境に配慮した取り組みを行っていますが、まだ、環境配慮の考え方が、方針や目標の中に明記される段階には至っていません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は、保育園の理念や基本方針等について、職員心得に明記し、職員に周知徹底を図っており、職員はその実践に努めています。 ・また、園長は、重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を求めたり、説明する機会をもっています。 ・主任クラスの職員は、スーパーバイザーとしての役割を果たせるよう育成されており、会議などを通して職員の業務状況を把握するしくみとなっています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は事業運営に影響のある情報を収集・分析して、外部環境の変化に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っています。 ・これらは職員会議等を通して、職員に周知され、園全体の取り組みに反映されています。 ・なお、保育園運営に関して、中長期的な計画や目標は、まだ、明文化された状態には至っていません。

利用者家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2006年9月4日～10月10日
- 2、実施方法 事業者から直接利用者家族に配付(手渡し) 同封の返送用封筒にて評価機関宛匿名で返送
- 3、回収率 76.8% (配布総数164枚、回収数126枚)
- 4、所属クラス 0歳児13人、1歳児22人、2歳児24人、3歳児22人、4歳児24人、5歳児19人
ただし同一家族で複数名が園に在籍の場合には、下の園児のクラスについて回答。

設問ごとの概要

【問1】 保育園の保育目標や保育方針について

80%の保護者が知っています。更に、“知っている”と回答した保護者の96%が「目標や方針に賛同できる」と回答しています。
数値80%は、「知っている」「まあ知っている」を合わせたもの。

【問2】 入園する時の状況について

ほぼ80%以上の保護者が満足しています。意見として、入園前の見学や説明に関してもう少し丁寧な対応を望む声があります。
数値80%以上は、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせたもの。以下同様。

【問3】 年間の計画について

「年間の保育や行事の説明」には、96%の保護者が満足という高い評価の一方で、要望を伝えるシステムが欲しい、夏期の給食停止期間について検討して欲しい、との意見があります。

【問4】 日常の保育内容について

モンテッソーリ教育に関する活動や教具に、100%に近い満足度です。生活面のトイレトレーニング、おむつ外しの取り組みも充実していると高く評価されています。一方で、園内でのケガに関して、事後の詳しい説明を求める意見があります。

【問5】 快適さや安全対策について

「園舎・園庭などの施設について」は、園児数のわりに狭いという声が多く出ています。「外部からの不審者侵入に対する備えについて」は、58%の保護者が不満と回答しています。多くの保護者が安全対策について、不安を感じています。

数値58%は「不満」「どちらかといえば不満」を合わせたもの。以下同様。

【問6】 園と保護者との連携・交流について

ほぼ90%の保護者は満足していますが、送迎時に、子どもの様子についてもう少し説明が欲しい、という要望が出されています。

【問7】 職員の対応について

「お子さんが大切にされているか」「園生活を楽しんでいるか」の問いには、ほぼ100%の高い満足を得ています。しかし、「不満や要望を気軽に言えるか」「不満や要望への対応について」の問いに関しては20%近くの不満回答があります。

【問8】 総合的な評価について

95%以上の保護者が満足しています。

結果の特徴

- ◇ 保育目標や保育方針、入園する時の状況、年間の計画、日常の保育内容に関しては満足度が高く、園の理念が理解され、保育が信頼されていると思われます。
- ◇ 安全対策については、早急な対策が望まれます。
- ◇ 園への要望や、送迎時の説明、事務対応など、保護者とのコミュニケーションについては、今後の検討が望まれます。

利用者家族アンケート集計結果

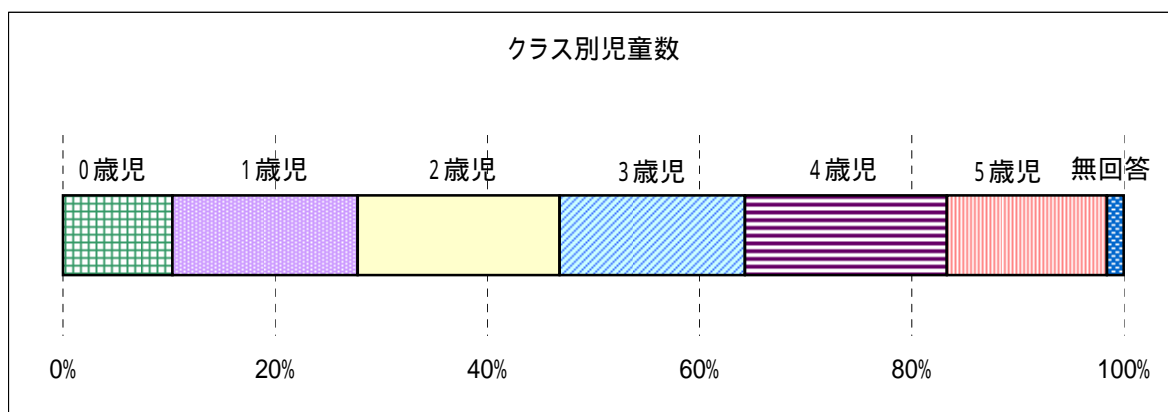
実施期間： 2006年 9月4日～10月10日

回収率： 76.8% (回収数 126枚 / 配付総数 164枚)

【属性】

クラス別児童数 複数在籍の場合は、下の子どもで記入

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	無回答	合計
13	22	24	22	24	19	2	126



(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

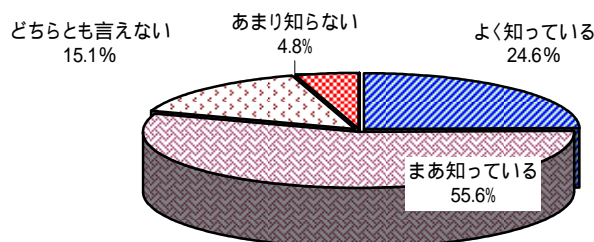
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	24.6	55.6	15.1	4.8	0.0	0.0	100

保育園の保育目標・保育方針を知っていますか



- よく知っている
- まあ知っている
- どちらとも言えない
- あまり知らない
- まったく知らない
- 無回答

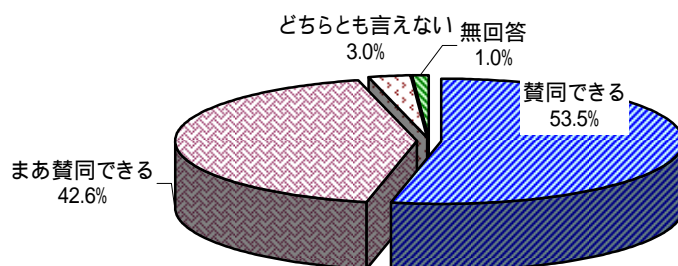
「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	53.5	42.6	3.0	0.0	0.0	1.0	100

保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

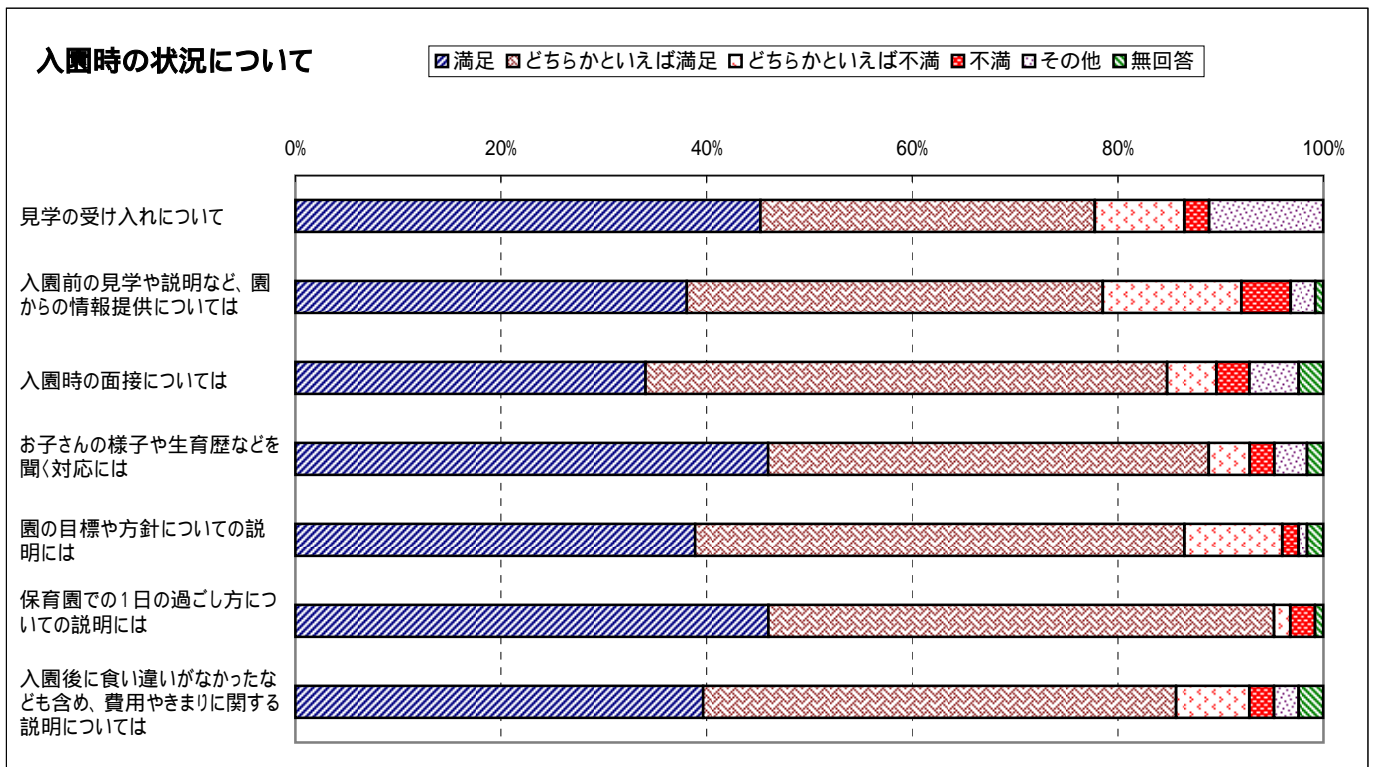


- 賛同できる
- まあ賛同できる
- どちらとも言えない
- あまり賛同できない
- 賛同できない
- 無回答

保育園のサービス内容について 問2 入園時の状況について

(%)

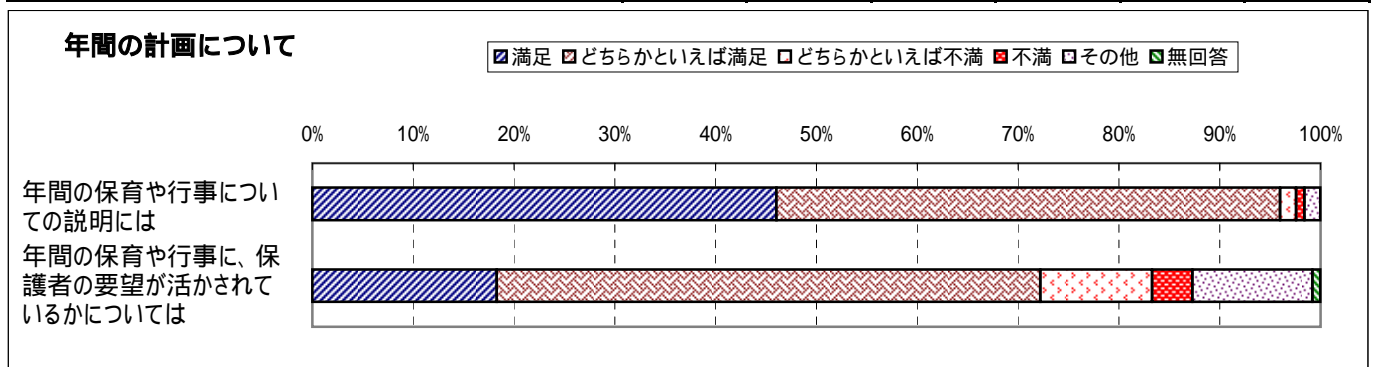
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	45.2	32.5	8.7	2.4	11.1	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	38.1	40.5	13.5	4.8	2.4	0.8	100
入園時の面接については	34.1	50.8	4.8	3.2	4.8	2.4	100
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	46.0	42.9	4.0	2.4	3.2	1.6	100
園の目標や方針についての説明には	38.9	47.6	9.5	1.6	0.8	1.6	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	46.0	49.2	1.6	2.4	0.0	0.8	100
入園後に食い違いがなかったなども含め、費用やきまりに関する説明については	39.7	46.0	7.1	2.4	2.4	2.4	100



問3 年間の計画について

(%)

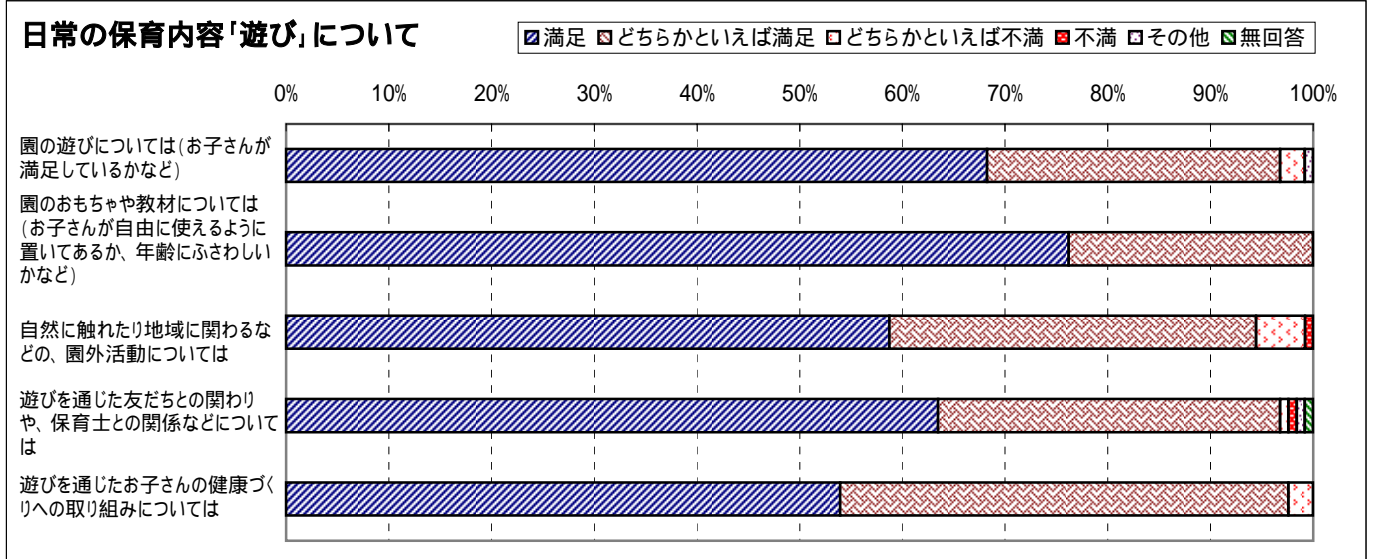
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	46.0	50.0	1.6	0.8	1.6	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	18.3	54.0	11.1	4.0	11.9	0.8	100



問4 日常の保育内容について

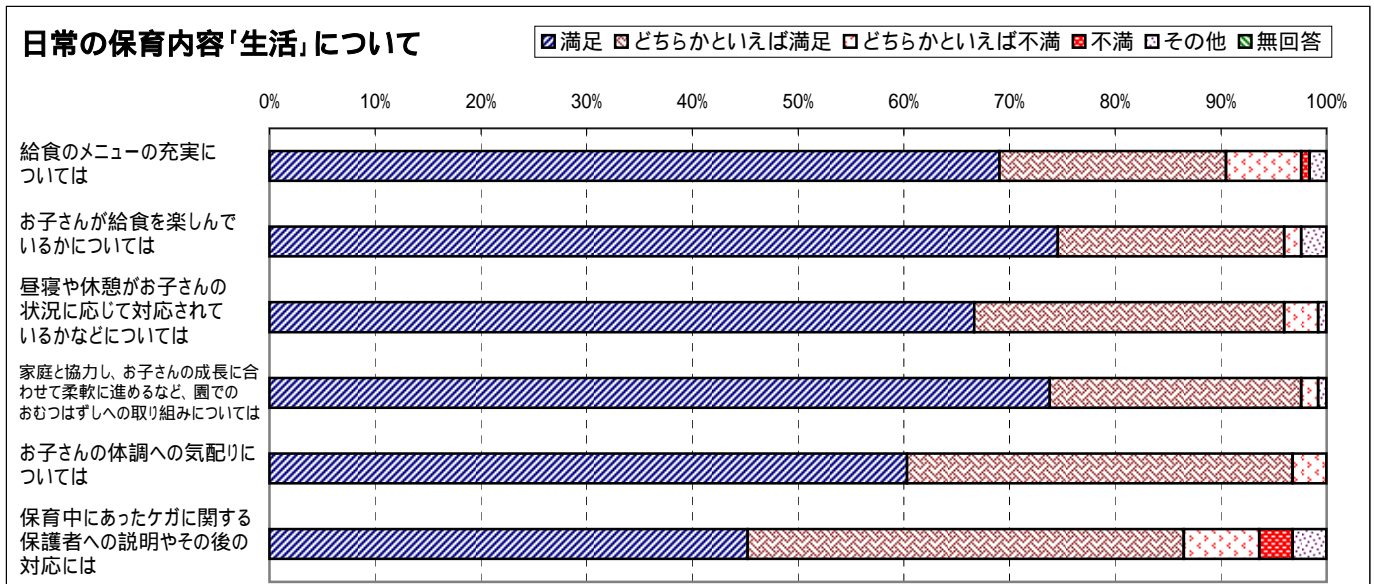
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
園の遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	68.3	28.6	2.4	0.0	0.8	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	76.2	23.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	58.7	35.7	4.8	0.8	0.0	0.0	100
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	63.5	33.3	0.8	0.8	0.8	0.8	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	54.0	43.7	2.4	0.0	0.0	0.0	100



(%)

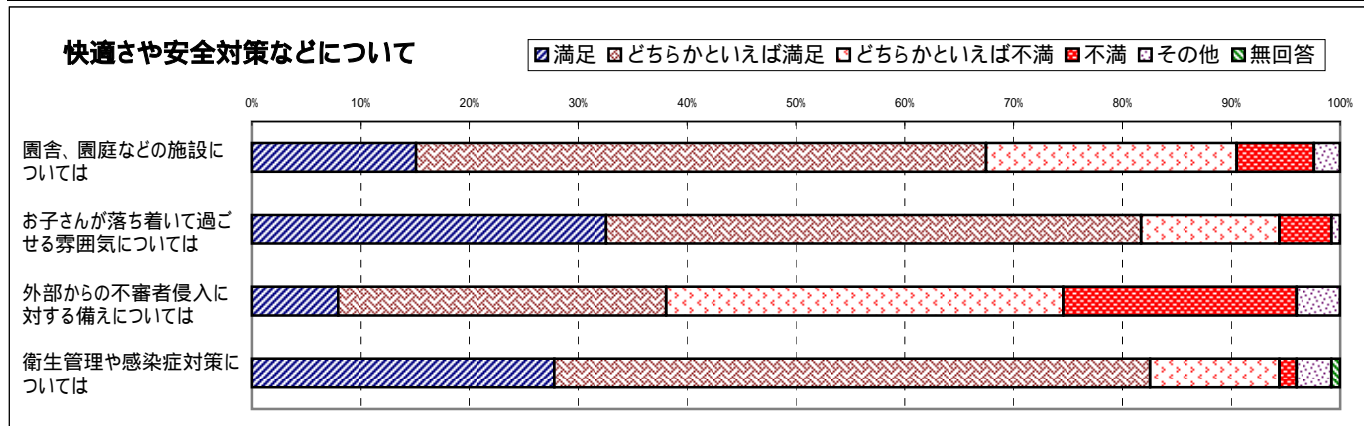
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食のメニューの充実については	69.0	21.4	7.1	0.8	1.6	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	74.6	21.4	1.6	0.0	2.4	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	66.7	29.4	3.2	0.0	0.8	0.0	100
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	73.8	23.8	1.6	0.0	0.8	0.0	100
お子さんの体調への気配りについては	60.3	36.5	3.2	0.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	45.2	41.3	7.1	3.2	3.2	0.0	100



問5 快適さや安全対策などについて

(%)

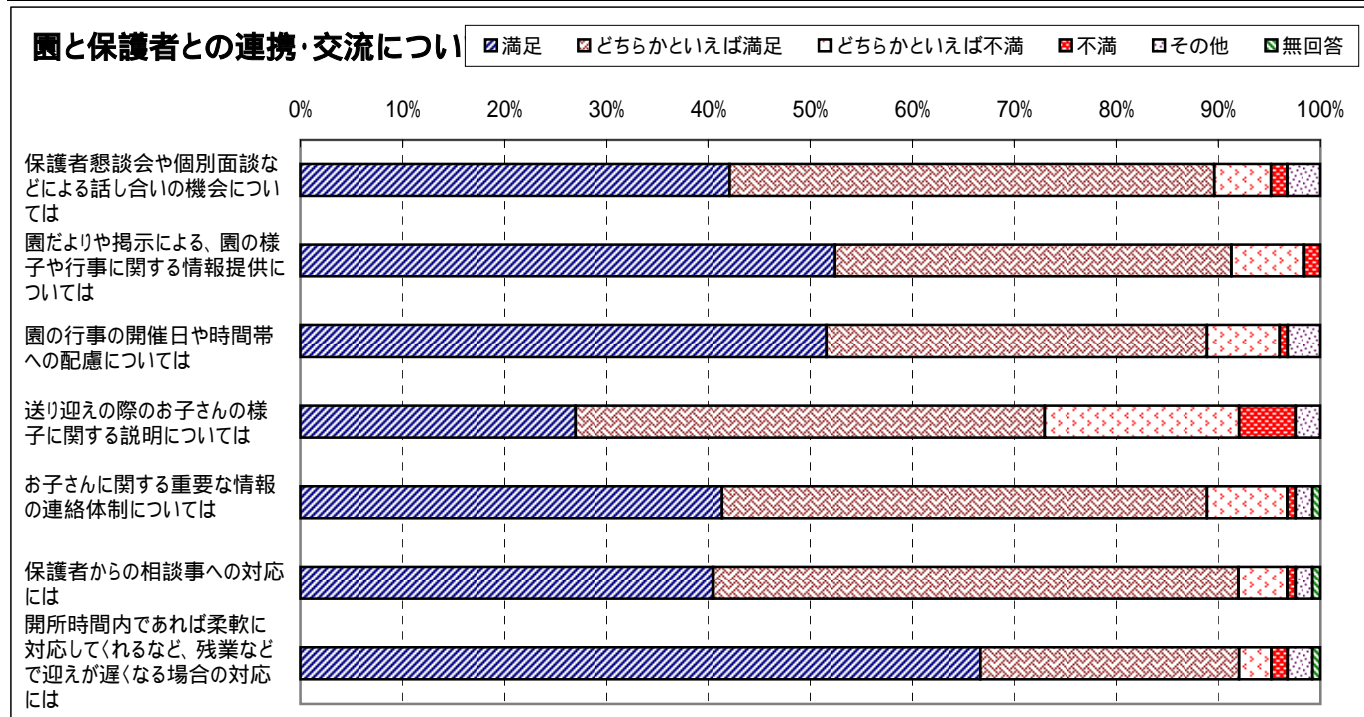
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
園舎、園庭などの施設については	15.1	52.4	23.0	7.1	2.4	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	32.5	49.2	12.7	4.8	0.8	0.0	100
外部からの不審者侵入に対する備えについては	7.9	30.2	36.5	21.4	4.0	0.0	100
衛生管理や感染症対策については	27.8	54.8	11.9	1.6	3.2	0.8	100



問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

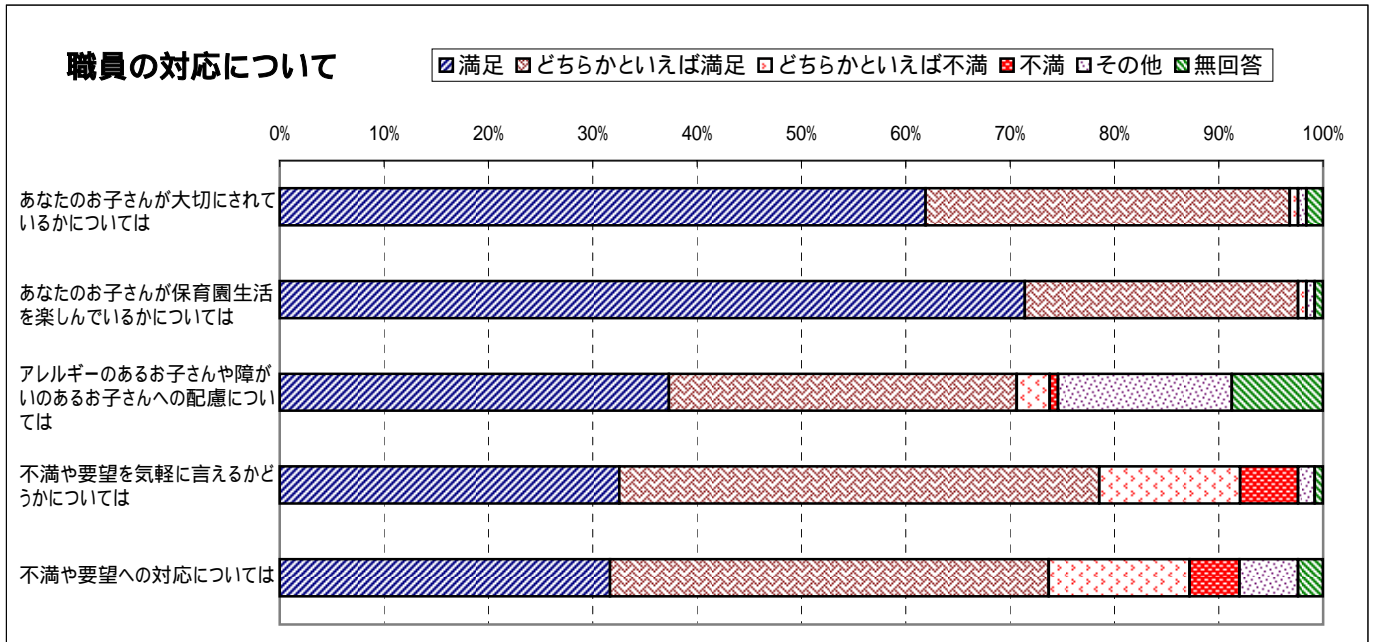
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	42.1	47.6	5.6	1.6	3.2	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	52.4	38.9	7.1	1.6	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	51.6	37.3	7.1	0.8	3.2	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	27.0	46.0	19.1	5.6	2.4	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	41.3	47.6	7.9	0.8	1.6	0.8	100
保護者からの相談事への対応には	40.5	51.6	4.8	0.8	1.6	0.8	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	66.7	25.4	3.2	1.6	2.4	0.8	100



問7 職員の対応について

(%)

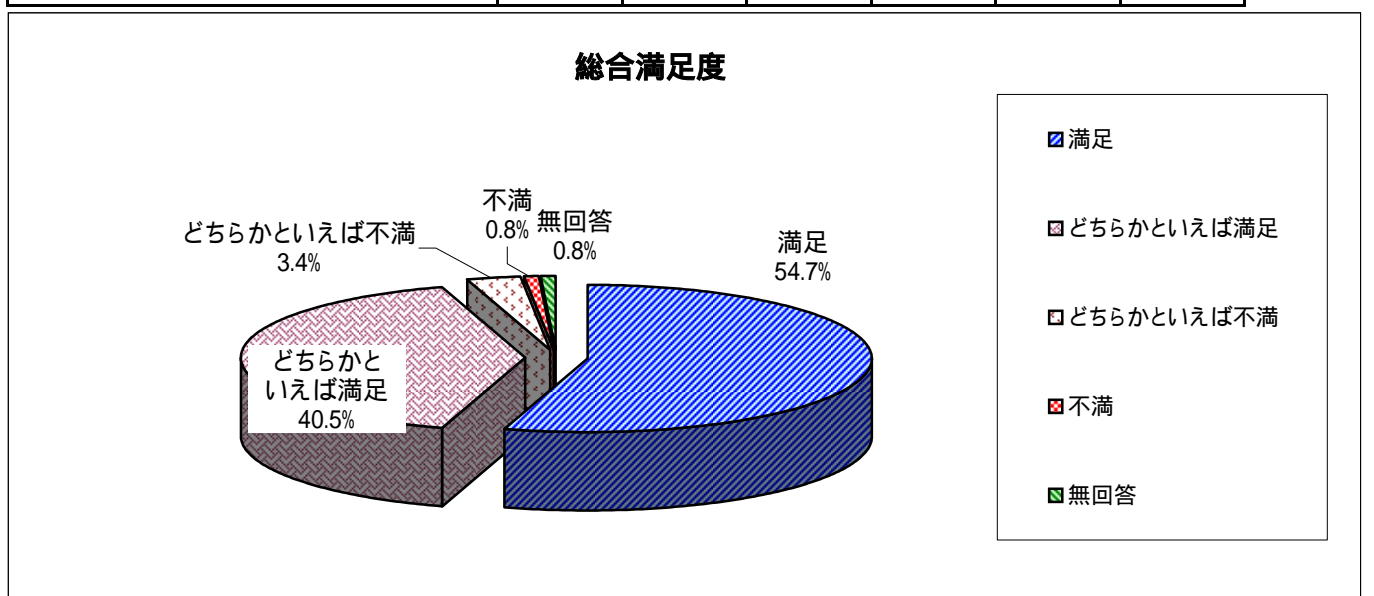
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	61.9	34.9	0.8	0.0	0.8	1.6	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	71.4	26.2	0.8	0.0	0.8	0.8	100
アレルギーのあるお子さんや障がいのあるお子さんへの配慮については	37.3	33.3	3.2	0.8	16.7	8.7	100
不満や要望を気軽に言えるかどうかについては	32.5	46.0	13.5	5.6	1.6	0.8	100
不満や要望への対応については	31.7	42.1	13.5	4.8	5.6	2.4	100



問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	54.8	40.5	3.2	0.8	0.8	100



利用者本人調査 分析

観察調査 2006年11月20日(月) 9:30~17:40、 11月29日(水) 8:20~17:30
観察中、5歳以上の園児に適宜聞き取りを行いました。

訪問調査の時期は、園にとって最大の行事であるクリスマス会を2週間後に控えて、各クラスともクリスマスの練習を行っていました。また、キリスト教主義の保育園であるため、一日は礼拝で始まり、食事はお祈りで始め、礼拝で一日が終わるという流れで貫かれています。

園はモンテッソーリ教育を柱とした保育を行っており、毎日の日課にモンテッソーリの時間が入っている他、幼児は国際(英語)・絵画・スイミングの時間があり、クラスやグループごとに時間は細かく区切られています。そのため自由時間は限られているようでした。

1. 遊びについて

- ・ 午前のモンテッソーリの時間やクリスマスの練習の合間をぬって、園庭を使った自由遊びが行われていました。あちこちの水溜りでの遊び、小屋の周りでの遊び、ごっこ遊び、フラフープやボール遊び、鬼ごっこ、かくれんぼ、登り棒、木登り、砂場、2階への階段や滑り台も自由に使って、「だるまさんがころんだ」「あぶくたった」を数人でやっていました。園庭で遊ぶ時間は限られていますが、散歩先の川沿いの遊歩道では全力で駆けるなどして体を動かしていました。
- ・ 子どもたちはクリスマスに向けた合奏、オペレッタ、降誕劇に熱心に集中して練習をしています。年長の練習を年少の子どもが熱心に周りで見ている光景も見られました。0歳児も保育士に抱っこされてステージの上で手遊びや歌を楽しんでいました。これは毎年繰り返されているので、年長になったら降誕劇を演じるという伝統がうけつがれ、子ども達もそれを楽しみにしているようです。
- ・ モンテッソーリの教具は十分に用意されており、子ども達は毎日決まった時間に「お仕事」として行っています。0歳から行っているのも子どもたちの生活の一部になり、落ち着いて集中して行っており、文字や数字、感覚、地図、ハサミなどの道具の扱いを確実に身につけているようでした。
- ・ 部屋の中では、おもちゃは限られ、特に夕方は10種類くらいのおもちゃの中から2、3種類を保育士が出してきれいに並べ、子どもたちはその中から選んで遊んでいました。
- ・ 子どもたちは「保育園が楽しい」と答え、「好きな遊びは?」と聞くと、「公園、砂場、ジャングルジム、木登り、変身ごっこ、お絵かき、ブロック」と言っていました。

2. 食事について

- ・ 0歳児も食事前の絵本や手遊びに集中して、配膳を待つことができます。幼児クラスでは、お当番が配膳を手伝い、食事前にお祈りをした後、おしゃべりをしながら楽しく食事をしています。
- ・ 0歳児でも手やスプーンを上手に使う自分で食べ、お代わりもしています。嫌いなものも保育士がおいしそうに食べて見せると、子どもも食べてほめられ、喜んでいました。幼児クラスでも食べる子はどんどんお代わりをしています。苦手なものは前もって減らしたり、「豆を3個だけ食べよう」などと励まされて食べ、どうしても時間内で食べられない子は別のテーブルに集まって最後まで食べていました。子どもたちは「残さないでがんばって食べる」「家では食べられないけど園では野菜も食べる」と言っていました。
- ・ 食後も椅子と食器を丁寧に順序よく片付け、幼児は自分で歯磨きをしていました。

3. 排泄について

- ・ 0歳児は、一人ひとり1時間おきに布おむつを取り替えてもらっています。
- ・ 1歳になると、決まった時間に声をかけてトイレへ行かせ、パンツの脱ぎ着は自分で出来る子は自

分でやり、できないところは保育士が手伝っていました。1歳後半になると、トレーニングパンツを使い、おむつの濡れやおしっこの様子を排便表に記入しています。

- ・2歳児は保育士に声をかけられて、ほとんど1人でトイレを済ませパンツをはいていました。途中で一人の子が、「ぬれちゃった」と保育士に伝え、自分の着替えがないと「なかった」と伝えて園の着替えを借りるなど、困ったことをきちんと伝えることができていました。
- ・幼児では、プログラムの変わり目や行きたいときに、自分で選んでトイレに行っていました。

4. 清潔・健康について

- ・部屋は保育士が一日に何度も掃除をして清潔に保っています。
- ・外から帰ると幼児は自分で汚れた洋服を着替え、乳児は保育士に洋服を交換してもらいます。汚れたものは保育士が一人ひとりビニールに入れて、各自のかごへ入れています。
- ・2歳児は、おやつ後に「自分で手とお口を拭いて」といわれ、自分で拭いていました。
- ・午睡は、5歳児は眠らない子も多いけれど、体を横にして休めるだけでも違うので、と寝かせています。後半になると曜日によって午睡をしない日も設けています。4歳児でも眠らない子が3人くらい横になってごろごろしていました。

5. いやな思いへの対応や権利を守ることについて

- ・泣いている子どもを保育士がずっと抱っこしたり、話しかけ、外へ連れて行ったりしていました。
- ・全体に穏やかでけんかは少ないように見えたが、物の取り合いが始まると保育士が間に入って「　　ちゃんが使ってたよ」「貸してって言おう」と話しかけると、すぐに終わりました。他の子どもたちも「けんかをして、すぐに仲直りをするよ」といっていました。
- ・2歳児で「　　ちゃんが泣いている」と子どもが伝えにくると、保育士が行って、双方から話を聞くだけで、子どもは泣きやんで遊びに戻りました。

6. 職員について

- ・子どもが礼拝堂にあるステージから落ちそうになったり、食事前に眠って椅子から落ちそうになるなど、危ない場面では保育士が気がついてさっと手が出ていました。ケガが少ないのは保育士の目がよく行き届いている成果と思われる。
- ・保育士は子どもたちを「ちゃん」「くん」で呼び、全体に「・・・してください」「・・・していいですか」など穏やかで丁寧な言葉を使っています。言葉が話せない0歳児にも「・・・したかったのね」と子どもの気持ちを受け止め、子どもの動作に合わせて共感する保育士の姿が多く見られました。
- ・送迎時、0歳児クラスでは保護者に必ず声をかけています。1歳児以上になると対応は、いろいろです。帰りは、早めに迎えに来た親とはゆっくり話していますが、5時を過ぎるとほとんど話すことはなく、幼児クラスでは、子どもが出てくるのを外で待っている保護者も多く、会話は少ないように見えました。
- ・保育中、保育士から時に厳しい言葉やきつい口調も聞かれ、笑顔も少なく見えたが、評価調査員が居たことと、時期的に最高に盛り上がるクリスマス前で、普段と違い緊張があったものと思われる。

まとめ

子どもたちはメリハリが利いて、礼拝や、行事、モンテッソーリの時間などの時は行儀よく集中して取り組み、自由遊びの時は、短い時間でも存分に好きなことをして楽しそうに遊んでいました。

職員は誇りと自信を持って保育にあたっており、乳児期は子どもたちを温かく受け入れ、年齢に応じて教えるべき時はきちんと指導し、子ども達としっかりと信頼関係ができている様子でした。

事業者意見

第三者評価受審は、当初から法人下の全保育園、同一年度内受審によって、各保育園の評価が判ると判断していた為、4園を大船ルーテル保育園(本園)・分園の前半、とつかルーテル保育園・つづきルーテル保育園の後半、と分割して同じ評価機関に依頼することに決めさせて頂きました。

評価の方向性が、「よこはまの保育」を根底に形成されている中で、当法人は民間の独自色の強い保育園であり、評価者を悩ませたのではないかと思いましたが、その為にわざわざ学ばれた様子を拝見して評価者の方々の真摯な取り組みには感謝しています。

同時に、第三者評価機関の眼からの評価と保護者の貴重な御意見を頂き、改善すべきものは改善し、今後の保育の向上と、子どもの幸せの為に、引き続き尽力致す所存であります。

具体的には、次の如くであります。

大船ルーテル保育園

1. 施設の安全管理については、現行の発想の転換を行い、現方式を全面的に検討の上改めるように致します。
2. 保護者の意見を汲み上げる場や手段等を用意し、保護者の御意見を保育の中に反映する様に努力いたします。
3. 地域支援機能については、一部のもののみでなく、園内にもその為のプロジェクトを立ち上げる方向で検討致します。
4. 評価報告書を再学習の為の資料として活用させていただき、将来の保育に益するように努めます。

大船ルーテル保育園分園

1. 園内の延長保育時の換気に配慮致します。
2. 大船ルーテル保育園の2・3・4と同様であります。